

2008 PEN-International Summer Leadership Institute に参加して

筑波技術大学 渡邊好行

私はこの夏休み、貴重な経験をすることができた。それは、日本財団からの助成を受けて、2008 PEN-International Summer Leadership Institute に参加してきたことだ。この研修は8月10日から16日までの1週間、イギリスのイングランド南東部イーストサセックス州にある Hesrtmonceux 城を会場に、4カ国のろう学生が集って行われたものである。日本から4人、アメリカから6人、ロシアから4人、中国から4人、合わせて18人のろう学生が集まった。本来はフィリピンからも参加するという予定だったのだが、ビザの関係などで残念ながら不参加となってしまった。

この研修に参加するまで、私はいくつかの不安を抱えていた。その中でも一番大きかった不安がコミュニケーション面である。数カ国のろう学生が集うことで、その分コミュニケーション方法も様々である。私は何をどう使ってコミュニケーションを取ればいいのだろう、自分の言いたいことは伝わるだろうか、相手の言いたいことは分かるだろうか、などと不安ばかりを頭の中にめぐらせ、出発当日を迎えた。しかし、その不安は最初の Ice Breaking Activity すぐに吹っ飛んだ。この時間では、お互いに自己紹介をすることで名前を覚えあったり趣味などについて知りあったりし、その上で自分が他の人を紹介するということを行った。そのおかげですぐ周囲の人と打ち解けることができ、これからの1週間が「不安...」から「楽しみ！」へと変わっていったのを覚えている。私は昨年1年間学んだアメリカ手話をたどたどしく使いながら脳をフル回転させて、ろう者がよく使うとされる身振りや指差し、筆談などを用いて自分の言いたいことが伝わるように努力した。また、相手の言いたいことを分かろうとした。

その後は、ろう者のリーダーやろう文化などについて、PEN-International の本部であるアメリカの国立ろう工科大学の先生方の講話を中心に進められた。いくつもの講話があったが、ただ講師の話を聞いて学ぶだけでなく、グループで討論をし、そこでまとまった意見を発表することもあった。国ごとの討論もあれば、他の国のろう学生と一緒にグループを作り、討論することもあった。様々な内容で国を超えて学生同士で討論することは私にとって新鮮で面白く、ここでも皆が「伝えたい！・分かりたい！」の気持ちを持って

コミュニケーションできたと思う。

それから自国のろう者のリーダーについて紹介したり、文化の紹介を行ったりもした。日本は、ろう者のリーダーとして2001年に欠格条項を撤廃し、薬剤師になることができた早瀬久美さんを取り上げた。発表を終えたときには、参加者の皆から絶大な拍手をもらった。また、この紹介を聞いた何人かの講師がその後の講話の中に彼女のことを持ち出して話された。そのことで彼女を取り上げ、紹介することができてよかったです。文化の紹介では福笑いと二人羽織を紹介した。2年前に参加した先輩のアドバイスを参考に福笑いを事前に3つ作って持っていたり、二人羽織を体験できるように法被や手ぬぐい・日本のお菓子を持っていったりして、日本文化を体験して頂いた。日本チームの紹介はこの体験を織り交ぜたことで予想以上に盛り上がり、とても嬉しく感じた。

今回は Leadership Institute のため、講話を聞いて学ぶことがメインであったが、私は休憩時間や食事の際の学生同士の交流が一番印象に残っている。お互いの国のかた話を教えることで話の輪が広がったり、他国の簡単なゲームをしたりして楽しむことができた。相手の言いたいことがなかなか分からなくて困っているときには、その話の内容を理解した他の学生が「こういうことでしょ？」と期間中に学んだ手話を使ったりして一生懸命通訳してくれた。それが楽しく、ここで「通じる」ことの喜びを味わった。

1週間を通して日本チームは積極的に学ぶことの大切さや、リーダーに必要なものを学ぶことができたと発表した。私個人としては「人」を大切にしていくことの重要さを学んだ。それは、他国のろう学生からはもちろんのこと、同じチームの学生・先生・通訳者1人1人からも学ぶことがあったからである。同じチームの人から学ぶことがあるとは思わなかつたので、必ず一人の人から1つ以上のこと学ぶことがあるのだ、と思うようになった。

私は2年前、北欧のろう教育の現状を視察しに行ったことがある。その視察で現地のろう者と何回か交流をしたことがあるのだが、今回のように1週間他国のろう学生と共に過ごし、学ぶというのは初めてで最終日の朝は皆で涙を流し、バスに乗って再会を誓った。人と関わることの素晴らしさも改めて実感でき、多くの財産を得られた Leadership Institute だった。多くのことを教えてくれた国立ろう工科大学の先生をはじめ、日本財団・参加者の皆、通訳者にお礼を申し上げたい。ありがとうございました。